

4年度 園の自己評価

幼保連携型認定こども園 島之内保育園

教育・保育理念	子ども一人ひとりを大切にし、保護者からも信頼され、地域に愛される保育園を目指す。		
教育・保育方針	信と和のもとに、明るく、楽しい、美しい保育園づくりを目指し、あたたかい人間関係の中で豊かな人間性を育み、明朗でのびのびと元気な子どもの育成に努力する。		
教育・保育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康でねばり強い子ども ・明るくて思いやりのある子ども ・自然に親しみ自然を愛する子ども ・人の話をよく聞ける子ども 		
項目	内容	評価	今年度の状況
保育目標	保育目標の具体化に向け、乳幼児の実態を踏まえた目標を設定しているか。	B	目標について浸透しきれていない部分もあり、共通理解を深め、日々の保育を行う必要がある。
	目標は、職員や保護者の願いを反映しているか。	B	
	目標は、前年度の反省を生かしているか。	B	
	目標は、全職員で検討し、共通理解を図っているか。	B	
保育計画	保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されたねらい、内容を取り入れているか。	B	各クラスの発達過程において、モンテッソーリ教育を取り入れている。環境構成を意識し、発達に応じた教具の準備を行う必要がある。職員一人ひとりのレベルアップも進めていきたい。
	発達過程に応じた保育がされているか。	B	
	環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか。	B	
	素材・用具を適切に活用しているか。	B	
健康及び安全	健康状態等の把握と疾病等の対応はできているか。	A	コロナウイルス感染症対策等もあり、毎朝の登園時に全園児健康状態等を把握した。アレルギーについては、適切な対応ができています。不審者対策も含め不測の事態にも全職員が意識し、対応できるように努めていきたい。
	アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行っているか。	A	
	設備・用具などの衛生管理や安全点検は行われているか。	A	
	避難訓練・交通安全指導を計画に基づいて適切に実施しているか。	B	
食育	食育計画を作成し、よりよい食習慣や心身の健康の基礎を培うよう努めているか。	A	給食委託業者ウオクニの職員による食育を計画的に行われている。園の畑において苗植えや収穫体験をしたり、成長過程を観察した。
	給食会議を行い、乳幼児にふさわしい食事が提供されるように、献立の見直しや改善を図っているか。	A	
の 施 設 務 長	施設長は、法令順守・職員指導・研修への促しを行っているか。	B	コロナ禍という事もあり、キャリアアップを中心としたリモート研修が多く、受講しやすい状況であった。
	働きやすい職場環境を整えているか。	B	

職員の資質向上	園内研修を計画し、日常の保育に生かされているか。	C	キャリアアップ研修により質の向上を図っているが、研修により得た知識をアウトプットするまでには至っていないため、園内研修の開催の充実を図りたい。
	研修課題は、保育目標の具体化につながるものであるか。	C	
	各種研修会、講習会への参加態勢の充実を図っているか。	B	
	定期的に自己評価を行い、資質向上へつなげているか。	A	
	危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられているか。	B	
子育て支援	地域の親子が一緒にあそぶことができるような場を設定しているか。	A	地域子育て支援拠点事業を行っているため、保護者にも利用しやすい環境が整っているように思われる。相談があれば、専門機関との連携も行える体制作りもできている。
	保護者の子育てに関する悩み、相談ができる環境を整えているか。	A	
	医療機関、保健センター等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。	A	
保護者支援・情報発信	保護者に対して、丁寧な言葉使いと、気持ちのよい対応を心がけているか。	A	園利用者においては、連絡アプリ「キッズノート」で日々の様子を配信していて、親子でその時の状況が確認できる。お帳面にも書かれていて、とても喜ばれている。保幼小連携による連絡協議会では、お互いの情報交換の場となっている。
	様々な園行事を通して、保護者との良好な関係を築こうとしているか。	A	
	園だより・クラスだより、ホームページ等で施設の情報を発信しているか。	A	
	地域の連絡会等との連携はできているか。	B	
	行事や子育て支援事業等の情報を発信しているか。	A	
	乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか。	A	

評価 A 良好 B おおむね良好 C 一部検討を要する D 改善を要する

コロナ禍が続き、ほとんどがリモート研修における受講であった。キャリアアップ研修において未受講の職員が中心に行った。研修で得た知識は、報告書に記入するだけでなく、アウトプットする機会を設け、知識・情報の共有を図り質の向上を図る必要がある。そのためには日々の対話を重視し、「子どもにとってどうなのか」という視点から保育の在り方考え、職員自らが主体的に園内研修等を行える環境作りから始める必要があると感じた。

保幼小連携の連絡協議会においては、お互いの現状を知りえる良い機会となり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識して、一貫した学びの繋がりを深めていきたい。保護者への連絡アプリ「きッズノート」を使用して、保育の様子を日々配信している。保護者にとっても利用しやすく、言葉では上手く伝えられないことが写真や動画で知ることができ、職員にとっても良いことだと思う。このようなシステムの構築は業務効率化に繋がり、かつ効率的であるため、総合的な資質向上のために段階的に導入を検討していきたい。